

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ひなた )

事業所番号	0671400281		
法人名	医療法人社団 緑愛会		
事業所名	グループホーム 香紅の里		
所在地	山形県村山市橋岡徳町20-19		
自己評価作成日	平成28年 9月 20日	開設年月日	平成18年 4月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年で開設から10年を迎える事が出来ました。開設から住み慣れた地域での生活が途切れないう個別の外出レクを充実させ、馴染みの関係を絶やさぬよう支援させて頂いています。昨年度から新たな地域貢献として認知症がある高齢者の為に認知症カフェを二カ月に一度開催し、認知症の方、そのご家族との交流の場を提供させて頂いています。地域交流では地区の美化活動に利用者と参加し花壇作りや地域と共同の菜園を営み、秋には地域の方の協力を得て収穫を行うなど、地域に密着した活動をさせて頂いています。平成27年12月には国際基準であるISO9001を取得しました。全ての職員が利用者に対し、統一したケアが提供出来る仕組みになっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「住み慣れた地域での生活を支えるため、私たちはお客様の尊厳を守り、共に喜び共に楽しみ、笑顔と生きがいを持って暮らせるお手伝いをします。」を理念に掲げている。地域とのかかわりは様々な地域行事に参加すること、事業所の力を活かした様々な活動への地域住民の参加が見られ、住民との交流が深まっている。利用者の出来ることを大切に、役割や楽しみごとを大切に介護計画を作り、個別ケアによって一人一人に応じた支援を行い、「笑顔と生きがいを持って暮らせる」よう努力している。法人による職員を育てる取り組みも多く、研修計画や職員が普段のケアを振り返る実践評価、職員夫々の目標管理等様々な取り組みが行われている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai gokensaku.jp/06/index.php>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成28年 10月 24日	評価結果決定日	平成 28年 11月 2日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット玄関等人目に付く場所に掲示し職員はもちろんの事、来客者等誰でも見ることができるようになっています。一人ひとりが暗記し、常に理念を意識したケアが実践できる環境になっています。	見やすい場所に法人の理念と事業所の理念を掲示している。事業所の理念は法人の理念を基に事業所で話し合い、見直しを加えている。職員は毎日、申し送り等で確認し記憶している。年度初めに職員の話し合いによるケアの目標を作り、会議等で振り返り理念の実践状況の確認と共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動推進委員会を中心に地域の美化活動、清掃活動、自主防災訓練等に参加しています。施設の方からは、心肺蘇生法の勉強会、認知症サポーター養成講座、防災についての講習会等を開催し地域の方にも参加していただいています。	地域との様々なかかわりを大切にしている。委員会を中心に地域の行事への積極的な参加が行われるとともに、事業所が地域の社会資源としての役割を果たすべく様々な取り組みに、地域住民の参加をいただいている。昨年からの認知症カフェを2か月に1回開催し、認知症サポーターの養成講座と共に地域での認知症の啓発啓蒙を行っている。地域ボランティアの来訪も多く、地域との交流が進んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のサロンに参加し、認知症についての講義、認知症予防の講習を実施しています。また昨年からの認知症カフェ「カフェKAKOU」を開催し地域の認知症を抱えた家族、介護に興味のある方の質問・相談にお答えしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催しています。市職員2名・家族代表2名・町内会長2名・地域代表1名・民生児童員1名を委員とし、施設の利用状況、事故の報告を行い意見や情報交換を行っています。	一昨年の目標達成計画に従い、市・地域・家族の代表のほかにオブザーバーの参加を加えて会議の活性化を図っている。2か月に1回開催され、利用状況、苦情・事故事例、防災、行事等が報告されている。市より岩手の水害を踏まえ指導等が行われるなど、様々な意見等が表され双方向的な会議となっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>定期的に関係各所を訪問し、施設、地域の情報交換を行っています。運営推進会議や市の会議等でも市職員、地域包括職員と情報交換をして協力関係を築いています。</p>	<p>市が主催するサービス事業所会議や地域密着型事業所会議等における情報交換の場を大切にしている。運営推進会議に参加いただき事業所の実情等理解を頂いている。個別具体的な問題等は、担当窓口を介して互いに協力し解決に向け努力している。</p>		
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>年1回職員全員対象で身体拘束についての勉強会を実施しています。過去に身体拘束の実績もありません。日々、拘束なしでも安全・安心に過ごしていただけるよう職員間で話し合いをしながら生活して頂いています。</p>	<p>こやまケア委員会や安全委員会を中心として学習会やマニュアルを用いて職員に周知を図っている。職員も禁止の対象となる具体的な行為等を理解している。カンファレンスや安全委員会で、利用者の危険に繋がる行為の原因や対策を話し合い、安全のための工夫をし、不適切な対応の無いよう努力している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年1回職員全員対象で勉強会を開催しています。高齢者虐待の定義や現状、防止方法の内容についても詳しく説明し話し合いを行っています。お客様の表情や軽微な怪我などにも十分注意し、虐待防止に努めています。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>年1回介護支援専門員による勉強会を実施しています。必要に応じ介護支援専門員同伴で話し合いを行う準備は整っています。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約は必ず管理者が実施し、運営規定・契約書・重要事項説明書等必要書類を読み合わせて説明させて頂いています。分かりにくい部分は分かるまで説明させていただき、入居後も疑問があればその都度説明しています。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回お客様アンケートを実施し日頃施設に対し言いにくいこと、要望の把握に努めています。アンケート結果についても対策を含めて公表し施設内にも掲示し誰でも見れるようになっていきます。各ユニット玄関に要望書も設置し随時意見も頂けるようにしています。	年1回アンケートを実施し、その結果や対応策について職員間で話し合い、公表している。また、家族会の行事を設定して意見等表す機会を作っている。職員も面会等家族とのかかわりの場面では積極的に声をかけ意見等表しやすい関係づくりの努力している。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、部署会議、ユニット会議と月3回の会議、また必要に応じて、部署、ユニットでミーティングを開催し、建設的な議論ができるようにしています。定期的に個人面談を実施し職員の意見を聴く機会を設けています。	/		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年職員全員が法人目標とリンクした個人目標を立て目標管理シートを作成し、達成に向けて日々取り組んでいます。	/		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに研修計画書を作成し職員個々のスキルに合った研修に計画的に参加できるようになっています。また毎月の部署会議で認知症等の勉強会を開催しています。	法人による研修計画に事業所の実情を合わせた研修を加え様々な学ぶ機会を作っている。管理者は内外の研修の成果をその都度確認し、サービスの向上に活かしている。職員全員が目標管理シートに目標を掲げ、管理者等が評価指導することで、職員の力量の把握と働きながら学ぶ機会が作られている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内での交換研修、勉強会に参加し法人内での交流、また外部の研修や勉強会に参加することで他事業所と交流を図っています。	山形県グループホーム連絡協議会による研修会や法人のグループホーム事業所による研修会等に参加し情報の交換を行っている。また、市内事業所間の会議も利用し情報の共有が図られ、サービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族から家での生活や昔の出来事等できるだけ多く聴きだし、ご本人様の事を知り理解することで困っている事や不安に思っている事を探りホームの生活に慣れて頂けるよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みの時点で心配や不安を聴きご家族様が安心できるよう説明させて頂いています。また入所後も何かあればその都度ご家族様の相談に応じています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの希望、要望をお聴きし今現在何が必要であるか、ニーズを正確に把握するように努めています。お客様に必要な支援が当ホームの理念や方針と合致しているかを見極めニーズに応じたアドバイスをさせて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とお客様の関係はもちろんの事、共同生活の場であることを忘れず、お客様同士が助け合い共に楽しく生活できるようサポートしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際は状態を詳しく伝え、情報を共有するようにしています。またご家族様と交流が図れるよう外出などをお願いし支え合う関係が継続できるよう支援しています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望をお聞きし馴染みの場所に個別に出掛ける企画をしています。面会者も快く受け入れています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間やレクリエーションの時間を利用し、職員が間に入りお客様全員が関われる時間を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から必要とされる時は可能な限りフォローをさせて頂いています。フォローが不可能な場合は関係機関を紹介させて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様との何気ない会話の中から昔の生活の様子を聞きだし職員間で共有しています。家族からも入居時、面会時に意向を把握しています。	センター方式アセスメント様式を利用し、利用者及び家族と向き合い、生活歴や趣味など様々な情報を得ながら意向の把握に役立っている。職員は日々のかかわりの中で、何をしてあげられるのかという視点や出来ることを大切にするという視点に立って表情や仕草を大切にとらえ意向の把握に役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報をケアマネージャー等に聞いたり、御本人様からお話をお聞きし生活歴をまとめています。また、職員で情報を共有しお客様が安心安全に生活出来るように経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態を介護記録に残し定期的にお客様のADLを把握し評価しています。心身状態については医療連携看護師に細目に報告し看護師による把握も定期的実施しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットに介護支援専門員を配置し毎月モニタリングの評価を行っています。その時々ニーズを正しく把握し一人ひとりに合った個別性の高いプラン、出来る事を継続できる様に支援するプランを意識して作成し、ケアを実施しています。	毎月計画の実施状況を確認しモニタリングを行い評価をしている。6か月ごと見直しが行われ、カンファレンスでの職員の意見や、担当者会議での家族の意見を踏まえ、利用者一人一人に合った役割や楽しみごとが実施できるよう、利用者の出来ることを大切に計画の作成に努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時の状況がわかりやすい記録を心掛けています。小さい事でも職員が共有できるように介護記録だけでなくノートや相談記録等も併用しています。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の理容店や飲食店、図書館等を利用しています。また地域のボランティアの方々に来て頂き、交流を図り地域に根差した施設づくりを行っています。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に地域の協力医の方へ職員が受診にお連れしています。外出が難しい方は往診をお願いしています。以前からのかかりつけ医を希望される方は変更する事無く家族対応か往診対応を行っています。	協力医への受診は事業所で行い、以前からのかかりつけ医の受診は家族によって行われている。「通院記録簿」を用いて事業所での様子、受診結果、家族への報告が整理され、事業所、医療機関、家族での情報の共有が図られ安心して医療が受けられるよう工夫している。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと委託契約し週一回の訪問、24時間電話対応で1人ひとりの体調管理を実施しています。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった時には職員も同行し、必要な情報を可能な限り医師、看護師に伝えています。入院中も定期的に職員が病院に行き状態の把握と退院への支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人や家族の希望を一番に考えた上で、希望に添った対応ができるように体制を整えています。病気の悪化等でホームでの生活が困難になった場合は、随時家族、主治医と話し合いを行い、その後の対応を検討しています。	事業所の方針としては看取りは行っていないが、早い段階から事業所として出来ること、出来ないことを説明し、必要に応じて話し合いを繰り返しながら方針の共有を図っている。重度化に関しては、主治医や協力医療機関と連携して方針を共有しながら可能か限り施設で生活できるよう努力している。		
33		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、地元の消防署に講師を依頼し、心肺蘇生法の講習会を実施しています。また緊急時対応の勉強会を開催し職員全員が対応出来るようにしています。			
34	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を置き年2回総合避難訓練を実施しています。また災害時には地域住民の方から協力を頂く体制になっています。	消防署立ち合いの上併設事業所との合同での総合訓練や、事業所の実情に応じた部分訓練が年5回ほど行われている。近隣地域の避難所にもなっており、住民を対象にした事業所による広域災害のための講習会も開かれている。また備蓄等も行われている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシーを確保できるような環境、声かけの工夫を行い安心して生活できるよう支援しています。また、全職員が施設理念を正しく理解しお客様一人ひとりの尊厳を守る事に真剣に取り組んでいます。	法人の理念や事業所の理念に人格の尊厳を掲げるとともに、職員全員が行う実践評価票を基に普段のケアを定期的に振り返っている。職員は普段からお互いに注意し合い不適切な対応の無いよう努力している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様と寄り添う時間を設け希望や思いを引き出せるようケアを行っています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お客様の事を一番に考えその人に合ったペースで支援させて頂いています。その日の体調や気分も読み取り、無理のない範囲で行動して頂いています。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様より毎日着る服を選んで頂いています。個別に服を買いに行ったり、なじみの美容室に出掛けられる企画を計画しています。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、後片付け等、出来る所は職員と一緒に手伝って頂いています。	法人の管理栄養士の指導の下栄養に配慮した献立を作り、事業所のアレンジを加えながら事業所内で調理している。利用者にも調理の過程に関わって頂きながら、職員と会話を楽しみながら家庭的な支援を行っている。おやつ作りや個別の夕食等を交えて食事が楽しみなものになるよう工夫も行われている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は全て管理栄養士が栄養バランス、カロリーを考え立てています。また個々に合った食事形態や食事量で提供しています。水分補給も時間毎にしっかりと行い、少ない方にはこまめに水分提供しています。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。自力での実施が困難な方には職員が手伝わさせて頂いております。夕食後には義歯をお預かりし洗浄することで清潔を保っています。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	オムツに頼らず、時間で誘導しトイレでの排泄を促しています。一人ひとりの排泄パターンを把握し、個々に合った支援、声かけを行っています。	一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、利用者の今できることを大切にした排泄介助を介護計画に位置付け、毎月のモニタリングや評価を行い自立に向けた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便にも配慮した献立になっています。また毎日体操を行い便秘予防に努めています。便秘気味の方には医師や看護師と連携をとり必要時下剤を使うようにしています。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	お客様の希望に合わせて毎日入る方もいます。時間帯も希望に添った時間に入れるよう調整しています。安全確保の為、必要時は2人での介助で入浴していただいております。	希望に応じながら入浴の支援を行なうとともに身体状況に合わせて2人介助等安全に入浴できるよう支援している。併設事業所の機械浴も活用でき安心して利用できるよう配慮されている。ゆずや菖蒲など代わり湯も利用し、入浴が楽しめるよう工夫している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望から個々に合わせた休憩や入床の時間になっています。入床の前もテレビを見て過ごす時間などを設けリラックスした状態で入床して頂いています。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助はマニュアルに沿って行っています。定期的にマニュアルを確認し安全に内服できるよう支援しています。薬の変更がある時は何が変わったのかを記録に残し全員が確認出来るようになっています。体調に変化があれば医師、看護師に報告相談しています。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式でアセスメントし一人ひとりに合った役割や楽しみが実施できるようケアプランに取り入れ、職員がサポートしながら行っています。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出が出来るよう企画し、外出する楽しみを支援しています。ケアプランにも散歩や外出を取り入れています。また、ご家族との外出・外泊も積極的に支援しています。	図書館や馴染みの理美容室、外食、個別レクとしての外出など、利用者一人一人に合った外出支援が行われている。また気分転換に散歩や畑、中庭等を利用し、外気浴等戸外に出かける機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に事務所の金庫で管理させて頂いています。希望や必要な買い物がある時は一緒に出かけご自分で支払いが出来るよう支援しています。</p>		
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙やはがき等での連絡はスタッフが準備をし、家族とのやり取りが出来るよう支援しています。ご家族との電話も希望があれば好きな時間に電話できるよう支援しています。</p>		
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>お客様の家と考え、大切な生活空間として整備させて頂いています。季節を感じられる掲示物にしたりと工夫しながら落ち着いた空間を提供しています。</p>	<p>共用空間は、温度や湿度が管理され、掃除に大変気を使い清潔感があり、快適に過ごせるよう努力している。食卓、ソファ、畳敷き等、利用者が思い思いに過ごせるよう家具等の配置がなされている。飾りつけ等はさりげなく幼稚さがなく快適に過ごせる空間である。</p>	
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>希望に合わせて、居室やソファ、食席に案内し落ち着いた場所で過ごして頂いています。晴れた日には、陽当たりの良い所に椅子を設置しゆったりと過ごして頂いています。</p>		
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>1人ひとりに合わせたベッドの配置や、自宅から馴染の物を持参して頂く等、生活しやすい環境作りを心掛けています。</p>	<p>使い慣れたものは家族と相談し持ち込んでもらい自宅での環境を大切にしている。家具の配置や飾りつけは思い思いに任せ居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>お客様の出来る事を奪うことなく、自立支援を行っています。居室やトイレなどの表示も景観を損なわないように気配りしています。</p>		